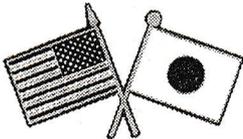


28 JUL 2006



第29号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.jaaga.jp/

第11回総会・講演会・懇親会

— 4月27日(木)、平成18年度JAAGA年次総会がグランドヒル市ヶ谷において、講演会、懇親会とともに開催された。 —



Inaugural address by new president Takegouchi

【総会】冒頭、故杉浦功一会員、故大山和夫会員両名のご冥福を祈っての黙祷から厳かに始まった。村木会長が総会参加への謝辞を述べた後、「JAAGAは、役員ボランティアを中心に、着実に活動してきた。平成18年度は、創立10周年の節目の年に当たります。また巷間では、米軍再編・再配備の中、日米同盟に関する国民への説明が不足しているように見受けられます。この様な状況下においてJAAGAの目的達成のため、日米双方の信頼関係がより増進するように努力しなければならない大事な年でもあります。平成18年度は役員を一新し、今までの教訓・反省を踏み台にして新たなスタートをします。総会での、皆様の熱心な審議をお願いします。」との挨拶を行った。

その後「本総会は、出席者・委任状提出者の合計が正会員の3分の1以上であり、総会成立に必要な条件を満たします。」と司会の香川常務理事から報告があり、第1号から第4号までの議案審議が開始された。平成17年度事業報告、同決算報告及び監査報告並びに平成18年度事業計画案及び同予算案に関する各々の議案について担当理事から説明があり、

いずれも提案どおり承認された。

引き続き、新年度の役員として、会長に竹河内捷次、副会長に山口利勝、大串康夫、中司崇、監事に平田伸成、川田哲雄、そして、理事に清水正睦、越智通隆、尾崎利夫の各氏が選任された。

ここで、村木前会長が退任するに当たり、「平成15年から第4代会長として務めてきました。この間、皆様の御支援・御協力に対して心から感謝します。特に役員の方々には、ご苦勞をかけましたが、ボランティア精神で一生懸命やっておりました。今後ともJAAGAが益々発展するように祈っています。JAAGAが日米同盟の中で大きな役割を果たせるよう、私は側面から支援します。」との挨拶を行った。

続いて、竹河内新会長が就任に当たり、「会長に選任されたことは、身に余る光榮であります。職の重さがありますが、精一杯務めさせていただきます。設立当時の諸先輩の方々の熱い思いとご苦勞があり、その上にたって、会の目的にある日米エア・フォースの友好の増進の資とする活動を実施し、会の目的を遂げてきたと私は考えています。空自と米空軍の関係は今後とも信頼関係と友情の強化が益々重要となってきます。JAAGAとしても日米の現役同志の友好関係を更に深めるため、側面から大いに支援していきたい。本年7月には創立10周年を迎えますが、この機に更なる発展の基礎固めをしたい。これには会員のボランティアと献身的な協力が不可欠であり、今後とも強力な御支援をお願いします。」と就任の挨拶を行った。爾後、新会長の下で、残余の議案の審議が継続された。

新理事長、副理事長及び常務理事が選任され、会長からの委嘱が承認された。新顧問の委嘱も同時に承認された。続いて、新役員の紹介があり、健闘を期待する拍手があった。その後常務理事の退任の紹介があり、これまた拍手をもってその功績が讃えられた。

最後に、JAAGAの活動がより円滑にできるように、「年度途中での理事の選任が、総会前においても、会長が暫定的に行うことができる。」という会則の試行案が承認された。スムーズな司会進行もあり、総会は予定より早く、滞りなく終了した。



Memorial lecture by Maj.Gen.Shimohira

【講演会】講師として空幕運用支援・情報部長の下平幸二将補が、会員約130名を前に、「中国の航空戦力（主として中国海軍の航空部隊）」と題し、熱意溢れる講演を行った。

講師は、中国の航空戦力のうち我が国に直接的に対応する「海軍航空部隊」に焦点を絞って、

- 1 海軍航空部隊の任務
- 2 中国の海軍戦略の変遷
- 3 海軍航空隊の航空機
- 4 訓練・人事の特徴
- 5 今後の注目点

という内容で説明を進め、その後質問に答えた。

まず、「海軍航空部隊の任務」に関し、中国の航空戦力を構成する空軍と海軍航空部隊の運用範囲、任務の特性等について述べ、その海軍航空部隊が現在の任務を有するに至った「中国の海軍戦略の変遷」について、毛沢東時代から鄧小平時代を経て現在に至るまでの経緯について説明した。

次に、「海軍航空部隊の航空機」に関しては、主要な航空機、装備品について、数及びそれぞれの性能に加え戦力組成について具体的に説明し、「訓練・

人事の特徴」については、それらの装備品等を用いて近代的な航空戦力運用を目指す海軍航空部隊の訓練の要領及び航空部隊を重要視していると思われる最近の中国海軍の人事の一端を紹介した。

最後に、この海軍航空部隊の「今後の注目点」について、装備面及び活動面から、近年の動向に基づく将来予測について興味深い分析結果を紹介した。

その後、会員から、「空軍と海軍航空部隊の任務分担」、中国の軍事力の増強に係わる「我が国の防衛力整備の在り方」、「米国やEU諸国の関与の程度」等に関する質問があり、それらに対する回答をもって講演は締め括られた。

終わりに、竹河内会長から講師に対して謝辞を述べ記念品が贈呈された。

【懇親会】会場を移しての懇親会は、新生つばさ会会長、副会長、JANAF（日米ネービー友好協会）理事長、そして、講演会講師等、招待者御臨席のもと、主催者である竹河内会長の挨拶で始まった。

会長は、「就任し、時間も経っておらず、会長としての心構えができていないが、今後とも宜しくお願いします。」と切り出し、「JAAGAは今年で創立10周年を迎え、記念行事を行います。記念講演には元統参議長マイヤーズ元空軍大将の招聘を予定しています。また、新しい試みとして法人会員の企業展示を計画しています。会員の皆様も是非ご覧いただきたいと思います。米空軍と航空自衛隊が益々活躍し、日米両国の信頼性向上のためJAAGAがその役割を十分に果たせるよう、今後ともよろしく御支援の程お願いします。」と挨拶された。

続いて、新生つばさ会会長の杉山 蕃氏による力強い乾杯の音頭がとられ、多数の賛助会員を含め、華やかで和気藹々の雰囲気の中、懇親会となった。講演会講師が賛助会員からの質問攻めにあたり、先輩と後輩との旧交を温める歓談の輪も随所に広がるなど、時間の流れを忘れてしまうほどの盛り上がりを見せた。終わりにあたり大串副会長が納杯を行い、楽しい余韻を残し懇親会は終わった。

こうして、平成18年度年次総会・講演会・懇親会は、実行委員メンバーの随所における活躍もあり、成功裏にその幕を閉じた。（源常務理事記）

竹河内新会長 就任挨拶



New president
Takegouchi

このたび村木会長の後を継いでJAAGA会長に就任しました竹河内です。会長就任は身に余る光栄であり、使命と責任の重大さを考えると身が引きしまる思いがいたします。浅学非才の身

ではありますが、精一杯職を努めて参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

JAAGAは設立以来、航空自衛隊と米空軍の相互理解と友好親善の増進に資することを目的として会員の皆様の献身的な活動により会を運営して参りました。その間、JAAGAの活動は航空自衛隊と米空軍の隊員、部隊間の相互理解と友好親善を増進する上でお役に立てたものと考えます。また会の活動は現場中心であり、現場からの日米安全保障体制の信頼性向上に少なからず寄与し得たものと考えます。

さて、昨今の世界情勢を見ますとテロの頻発、核の拡散など多様な危険が存在しています。わが国周辺においても核拡散、ミサイルの問題、領土の問題など不確実、不安定な要因があります。このような情勢の中、わが国の安全を確保し、地域の安定を維持するためには不断の努力と強い決意が必要です。

このためわが国は、自ら防衛力を保持するとともに

日米同盟関係を維持し、その信頼性を高めることによりその決意を表しています。

JAAGAは、引き続き日米隊員の相互理解と友好親善を増進に資する活動を行い、現場から日米同盟の信頼性向上に寄与していきたいと考えます。また、安全保障に関心のある学生、一般の方を中心に米軍との交流、意見交換の場を通じてより幅広い層に日米安保・米空軍について理解を得られる活動を行うなど、防衛現場をよく知り、航空自衛隊と米空軍の現場に密着したJAAGAならではの活動を行ってきたいと考えます。

本年はJAAGA設立10周年にあたります。粛々と記念の行事を行うとともに、この機に会の活動の趣旨・内容を衆知するとともに会員の意識を高揚するなど、JAAGAの活動体制の確立を図っていききたいと考えます。また、会の活動を強化・充実していくためには会員増勢が必要であり、引き続き会員の拡大について努力していきたいと考えます。

もとより本会は会員のボランティア活動により成り立っており、会員の皆様の協力なくしては折角の意義ある活動もできません。会員の皆様におかれましては今後とも絶大な協力を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とします。

(第5代会長 竹河内 捷次)

村木鴻二元会長 退任挨拶



Former president
Muraki

平成15年4月以来、JAAGA会長を勤めてまいりましたが、この度、退任することになりました。この間、皆様から頂いた温かいご支援、ご協力に対し、心より感謝申し上げます。日

本の平和と安全さらに東アジアの発展のために「日米同盟」が必要不可欠であり、それを有効に機能させるため、JAAGAは航空自衛隊と米空軍の信頼関係増進に努力してまいりました。これからも、新会長を中心として、この目的に向かって地道に努力されることを祈念します。私も微力ながら、側面から協力をしていきたいと思っております。最後に、日本にとっ

て今、日米同盟強化が最重要課題であるという想いを述べさせていただき退任の言葉とします。

米国防総省は、昨年、議会報告「中国の軍事力」を発表しました。この報告書によると、中国が公表した軍事費の2、3倍にも及ぶ巨額の軍事費（最大推定9兆円）を投じて軍事力の増強を進めていること、台湾問題を解決した上で、「中国の台頭のため、諸外国軍の封鎖を打ち破り、大洋を抜けていく」考えであること、東アジア共同体を推進し日米を分断するとともに米国をアジアから排除しようとしていること、反国家分裂法により台湾島内世論を威嚇分断し、合わせて日米が台湾を支援しないように政治、外交、軍事的な圧力を行使することなど、中国の脅威が強調されています。

米ソ冷戦時代は、全世界が政治、経済、軍事すべてを含めた対峙の枠組みの中で、日本は多数の中の一人で、周りに倣えば良かったのですが、この新たな脅威に対しては、日本が果たさなければならない役割が大変大きいのであります。すなわち、東アジア共同体だけでなくアジア太平洋のいかなる地域的枠組みといえども米国が参加しない限り有効に機能

しないことは言うまでもありませんが、その米国をアジア太平洋の中に引きとどめ、関与させる役割を果たしうるのは日本をおいてほかにないからです。しかし、今の日本は「中国の経済力」への関与を深めたいという想いが、中国の脅威に対峙しなくてはならないという意思を鈍らせているようです。中国はそれを読み切った上で、日本の国論を分断し日米を離間させようとしていることを認識すべきであります。一見「対峙」と「関与」の二者択一的な選択をしなければならないように思えますが、毅然とした「対峙」が経済上の「関与」をも引き出すことを忘れてはなりません。そして、この毅然とした「対峙」こそ、不動の日米同盟と強い抑止力であります。

米軍再編に伴う同盟協力がちぐはぐしている昨今ですが、日本の将来を見据えた国家安全保障のため、何をどの程度忍ぶかを真剣に考え、日米同盟の強化を図るとともに、独立完結性の高い防衛力による強力な抑止力を構築することが、今日本に求められる最優先課題であると考えます。

JAAGAに栄光あれ！

(第4代会長 村木 鴻二)

第1号議案

平成17年度事業報告

(自平成17年4月1日～至平成18年3月31日)

第1 事業実績の概要及び会勢の現状

主要事業は、概ね計画どおり実施できたほか、JAAGA10周年記念行事準備委員会を立ち上げ、10周年記念行事の運営に着手した。

平成17年度末の会員数は、389名・法人（正会員288名、個人賛助会員46名、法人賛助会員48法人及び名誉会員7名）であり、17年度当初会員381名・法人から正会員2名、個人賛助会員4名、法人賛助会員2法人の増となった。

第2 事業等の実施状況

1 事業

(1) 日米共同訓練における参加日米隊員の激励等

17. 6.13 アラスカにおいて行われるコープ・サンダー（日米共同防空訓練）に参加する隊員を岩崎理事から総隊司令官に託して激励した。

17. 7. 8 コープ・ノース（日米共同訓練）グアムに参加する隊員を杉山顧問から北空司令官に託して激励した。

(2) 米空軍隊員の激励等

該当がなかった。

(3) 日米共同の行事等に対する支援

17. 6.18 カデナススペシャルオリンピックの開会式に細副会長、石津支部長が参加し、支援した。

- (4) 日米要人等の講演・講師派遣
- ア 会員および空自隊員を主対象とする講演
- (ア) 17. 5.11 (総会実施時)
- 講師：第5空軍司令官
演題：JBCCの将来ビジョン
聴衆：180名
- (イ) 3/四半期計画分については、調整未了で実施できなかった。
- イ 米空軍隊員を主対象とする講演会等への講師等派遣
- 米空軍の要望がなかったため、実施していない。
- (5) SPORTEX'05
- ア SPORTEX'05-A
17. 6.3 (金) 会員及び米空軍隊員を対象として多摩ヒルズにおいて実施した。
- 参加者は61名〔7〕(米軍：19名〔2〕、会員：42名〔5〕)であった。
- 〔 〕内は、ボランティアで外数
- イ SPORTEX'05-B
- 17.11.23 (水、祝日) 正会員、空自隊員及び米空軍隊員を対象として多摩ヒルズにおいて実施した。
- 参加者は102名〔8〕(米軍：37名〔1〕、空自：28名〔2〕、会員：37名〔5〕)であった。
- 〔 〕内は、ボランティアで外数
- (6) 米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援
17. 8.24 横田基地において、第5空軍司令官立会いの元で山口副会長がCMSgt James A. Royに対し、日米下士官相互部隊研修の支援金を贈呈した。
17. 9.21 米空軍下士官を受け入れる空自への支援金を空幕人事教育部長に手渡した。(岩崎理事参加)
- (7) 米空軍隊員の日本交流等支援
- ア 米空軍隊員の史跡研修支援
- 17.11.15,16 第5空軍副司令官御夫妻以下7名参加の賛助会員招待の日光等史跡研修を支援した。
- イ 米空軍隊員の地域行事参加支援
17. 8. 6 三沢基地准曹士会が行う米空軍隊員及び家族のねぶた祭り参加を支援した。
- (8) 日米隊員の表彰
18. 1.28 嘉手納基地米空軍年度優秀隊員表彰

行事の場において、米空軍第18航空機整備中隊ゲーリーT. ベネット曹長並びに南混団司令部総務部人事課上條行雄曹長を優秀隊員として表彰した。

18. 2. 4 横田基地米空軍年度優秀隊員表彰行事の場において、米空軍第36空輸隊ジェフリーJ. ダウンズ大尉並びに総隊監理監察官付武田宗朗1曹及び開発実験集団司令部准曹士先任杉山弘准尉を優秀隊員として表彰した。

18. 2.10 三沢基地米空軍年度優秀隊員表彰行事の場において、米空軍第35航空団ローレンスP. ハントIV軍曹並びに北警団1移警隊松川寛直准尉を優秀隊員として表彰した。

- (9) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇

17. 5.17 第374空輸航空団司令シスラー大佐の送別会に越智理事夫妻以下9名が参加した。

17. 6. 1 第374空輸航空団司令指揮権交代式(シスラー大佐→グッドウィン大佐)に越智理事夫妻以下5名が参加した。

17. 8.26 三沢基地において行われた第35戦闘航空団司令交代式(ウィリアムJ. ルー准将→サルバトーレ A. アンジェレラ大佐)に小澤支部長が参加した。

18. 1.31 嘉手納基地において行われた第18戦闘航空団司令交代式(ジャンマルク・ジョアス准将→ハロルド・モルトン准将)に石津支部長が参加した。

- (10) 日米安保等に関する広報活動

- ア 講演会等への講師派遣等
要請がなかったため実施していない。

- イ 米空軍に対する広報支援
適宜、米空軍広報記事を「だより」に掲載した。

- ウ 米空軍の企業研修の斡旋
米空軍の計画がないため実施していない。

- エ 大学生等の米軍基地研修支援
大学側の要請に基づき横田基地研修を調整したが、日程の都合があわず実施できなかった。

- (11) 在日米空軍各基地との連携の強化

- ア 主として渉外担当理事を通じ、第5空軍、米

空軍基地等との意志の疎通を図った。

- イ 17. 8.20,21 横田基地友好祭に越智理事、阪東理事が参加した。

17. 12.3 第5空軍司令官主催のXmasパーティに山口副会長、細副会長ほか理事7名が参加した。

17. 12.10 三沢基地のXmasパーティに小澤三沢支部長以下2名が参加した。

17. 12.11 嘉手納基地のXmasパーティに石津沖繩支部長、森理事以下3名が参加した。

(12) 空自基地及び米軍基地等の研修

ア 賛助会員研修

18. 3.13,14 法人賛助会員13名、個人賛助会員7名の合計20名の参加を得て、三沢基地研修を実施した。(森理事以下6名同行、三沢支部長以下2名現地支援)

イ 正会員研修

17.10. 6 大串団長以下15名の参加を得て横田基地研修を実施した。

- (13) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布26号(17. 7.26)、27号(17. 11.21)、28号(18. 3.30)の3回発行した。

(14) 総会及び懇親会

17. 5.11 グランドヒル市ヶ谷において、会員57名(委任状174名)の参加を得て総会を実施し、16年度事業報告、収支決算報告、17年度事業計画、予算、役員の選任等が承認された。引き続き、懇親会を195名の参加を得て実施した。

(15) 10周年記念行事の準備

7月の常務理事会で大綱を報告後、会長の承認を得て準備委員会を立ち上げた。各委員の担当を定め実施の細部を計画・準備中である。

※ その他の事業

17. 10.5~7 シビックツアーに榎理事が参加した。

17. 11.23 JANAF A総会に森理事が参加した。

18. 2.15 福生・横田交流クラブの新年会に大串理事以下4名が参加した。

2 運営管理

(16) 会勢の維持・拡大

会勢拡大のため、積極的に入会勧誘を実施するとともに、退官予定隊員には退官時期に合わせて案内状を送付した。年度当初会員数381名・法人から年度末会員数389名・法人へと8名・法人の増勢をした。会員区分ごとの細部は、次のとおりである。()内は年度当初数)

正会員：288名(286名)、個人賛助会員46名(42名)、法人賛助会員：48法人(46法人)、名誉会員：7名(7名)

(17) 会員名簿の作成・配布

計画どおり、本冊を7月、修正表を11月、3月に発行した。

(18) 一般広報

関係広報誌等への投稿、情報の提供等を行うとともに、インターネット・ホームページを引き続き運営した。

(19) 理事会及び常務理事会

理事会を4半期に1回、他の月(8月を除く)には常務理事会を開催した。

理事会：6. 30(木)、9. 29(木)、12. 15(木)、3. 30(木)

常務理事会：4. 26(火)、5. 30(月)、7. 26(火)、10. 31(月)、11. 21(月)、1. 20(金)、2. 27(月)

(20) 監査

17. 4.13 監査を実施した

第2号議案

平成17年度収支決算報告書

(平成17. 4. 1 ~ 18. 3. 31)

(単位: 円)

収 入			支 出				
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額		
前 年 度 繰 越	8,451,741	8,451,741	事 業 費	激 励 慰 問 費	100,000	0	
年 会 費	4,054,500	4,539,120		共 同 訓 練 激 励 費	300,000	200,000	
利 息	150	43		研 修 助 成 費	155,000	128,610	
寄 付 金	-	-		表 彰 関 係 費	400,000	311,280	
雑 収 入	-	-		友 好 親 善 行 事 費	1,130,000	949,381	
				総 会 費	500,000	507,432	
				広 報 費	1,075,000	968,955	
				小 計	3,660,000	3,065,658	
				運 営 管 理 費	名 簿 関 係 費	120,000	99,330
					会 則 関 係 費	40,000	0
			入 会 活 動 費		70,000	65,536	
			支 部 運 営 費		90,000	40,130	
			会 議 費		20,000	9,280	
			事 務 費		70,000	59,261	
			通 信 費		30,000	14,898	
			旅 費		129,000	129,000	
			雑 費		100,000	82,792	
			予 備 費		200,000	0	
			小 計	869,000	50,227		
			支 出 計	4,529,000	3,565,885		
			翌 年 度 繰 越	7,977,391	9,425,019		
合 計	12,506,391	12,990,904	合 計	12,506,391	12,990,904		

第3号議案

平成18年度事業計画

(自平成18年4月1日～至平成19年3月31日)

第1 事業運営方針

各種事業を着実に推進するとともに、JAAGA創立10周年を機にJAAGA活動の体制の確立を図る。

このため、10周年記念行事を最重要事業として位置づけ、同行事を盛会裏に運営することにより、JAAGAの活動の趣旨・内容を周知するとともに会員の意識を高揚し、以降のJAAGA活動の基盤とする。

第2 実施事業等の概要

1 日米隊員の激励等

(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等

実施事項：日米共同訓練に参加する日米隊員の激励・慰問

対象訓練：コープ・ノース、コープ・エンジェル、コープ・サンダー等

時期：日米共同訓練実施時

(2) 米空軍人の激励等

実施事項：国際貢献活動等に参加した米空軍人（軍属を含む。「以下同じ」）の激励・慰問

訪問先：三沢、横田、嘉手納

時期：国際貢献活動等があった場合に実施

(3) 日米隊員の表彰

対象基地：三沢、横田、入間、府中、嘉手納、那覇等

表彰人員：各基地日米隊員1名基準

時期：米空軍記念日等関連行事等実施時

2 日米隊員の交流等支援

(1) 日米共同の行事等に対する支援

実施事項：日米隊員の友好スポーツ大会（スペシャ

ルオリンピック)等への支援

時期及び基地：5月(横田基地)

6月(嘉手納基地)

2/四半期(三沢基地)

- (2) 米空軍、空自間の各種交換・交流活動等支援
 実施事項：米空軍と空自の間において実施される各種交換プログラム、交流活動等への支援
 対象：① 日米下士官相互部隊研修に参加する日米隊員
 ② その他要請に応じ日米交換幹部計画等米空軍空自交換・交流活動に参加する日米隊員
- 3 米空軍軍人の日本研修等支援
- (1) 米空軍軍人の日本文化研修支援
 実施事項：賛助会員招待の日光等史跡研修支援
 対象：米空軍軍人(夫妻等10名基準)
 時期：1/四半期
- (2) 米空軍軍人の地域行事参加支援
 実施事項：三沢基地准曹士会が行う米空軍軍人及び家族のねぶた祭り参加支援
 時期：平成18年8月
- 4 JAAGAと航空自衛隊・米空軍との交流
- (1) SPORTEX'06
- ア SPORTEX'06-A
 場所：多摩ヒルズ
 参加者：会員及び米空軍軍人 約100名
 時期：平成18年6月2日(金)
- イ SPORTEX'06-B
 場所：多摩ヒルズ
 参加者：正会員、空自隊員及び米空軍軍人 約100名
 時期：平成18年11月3日(金、祝日)
- (2) 指揮官交代行事等への出席及び来日した米空軍関係者の接遇
 対象基地等：三沢、横田、嘉手納、都内
 時期：その都度
- (3) 米空軍協会(AFA)総会への参加
 実施事項：JAAGA名誉会員との交流
 時期：18年9月
- (4) 在日米空軍各基地との連携の強化
 対象基地：三沢、横田、嘉手納
 実施事項：①各基地との緊密な調整、広報資料の提供等
 ②オープンハウス等各種基地行事への参加
- (5) 米空軍慶弔への対応
 必要に応じて慶弔意を表すとともに、クリスマス

カードを送付する。

- 5 広報及び広報協力
- (1) 日米要人等の講演
- ア 空幕部長等の講演
 時期：平成18年4月27日(木)(総会実施時)
 講師：空幕運用支援・情報部長
 対象：正会員及び賛助会員
- イ 米要人等の講演
 時期：平成18年7月11日(火)(JAAGA10周年記念行事時)
 講師：マイヤーズ元統合参謀本部議長
 対象：正会員及び賛助会員、空自隊員、米空軍軍人並びに招待者
- (2) 米軍基地等の研修
 実施事項：賛助会員の米軍基地等における装備品、施設等の研修及び懇談・激励等
 研修先基地及び時期：
 ①米軍横田基地研修：2/四半期
 ②那覇基地及び米軍嘉手納基地：4/四半期
- (3) 日米安保等に関する広報活動
- ア 講演会等への講師派遣等
 実施事項：部外者、学生等を対象とする講演会等に、会から講師を派遣又は米軍要人等の講師の派遣斡旋
 実施要領：主催者側の計画(日時、場所、経費、その他)による。
- イ 米空軍に対する広報支援
 実施事項：米空軍が準備する広報記事を「だより」に掲載(「だより」紙面の提供)
 実施要領：米空軍(横田基地広報部)との調整による。
- ウ 大学生等の米軍基地研修支援
 実施事項：主任教授等を通じた大学生等に対する米軍基地研修の紹介と研修支援
 実施要領：研修者の希望に応じ、米空軍とその都度調整する。
- (4) 会報「日米エアフォース友好協会だより」の発行・配布
 発行回数：3回(7月、11月、3月)
 ページ数：16ページ基準
- (5) JAAGAパンフレットの更新
 実施時期：19年3月
- (6) 一般広報
 実施事項：① 関係広報誌等への投稿、情報の提供等
 ② インターネット・ホームページの運営
- 6 総会及び懇親会

第4号議案

平成18年度収支予算

(単位：円)

収 入		支 出		
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額	
前 年 度 繰 越	9,425,019	事 業 費	共同訓練激励費	200,000
年 会 費	4,095,000		激励慰問費	100,000
利 息	100		表彰関係費	300,000
寄 付 金	—		友好親善行事費	1,275,000
雑 収 入	—		広 報 費	1,590,000
			総 会 費	500,000
			10周年記念関連費	810,000
			10周年記念行事費※	4,250,000
			小 計	9,025,000
			運 入 会 活 動 費	70,000
			管 名 簿 関 係 費	120,000
			理 事 会 運 営 費	210,000
			支 部 運 営 費	90,000
			費 事 務 通 信 費	210,000
		小 計	700,000	
		予 備 費	200,000	
		支 出 計	9,925,000	
		翌年度繰越	3,595,119	
合 計	13,520,119	合 計	13,520,119	

※細部は付表のとおり

第4号議案付表

JAAGA10周年記念行事関係経費

項 目	細部項目	経費(万円)	備 考
全 般	会場借上費	50	講演会：30万円 企業展示：20万円
	案内状等	10	印刷代、切手・葉書代
講演会	講師旅費、謝礼等※	※120	国問研との調整による
	機材借り上げ費等	77	モニターテレビ等：12 同時通訳機材等：65
祝賀会	招待者等飲食代	78	招待者及びご夫人： 130名×6千円
	アトラクション謝礼等	10	交通費及び昼食費
感謝状	印刷代、額及び記念品	35	7名×5万円
	10周年記念品	45	500個×900円
	合 計	425	

第5号議案

役員 の 選 任

職 名	氏 名	
会 長	竹河内捷次（新任）	
副 会 長	山口利勝、大串康夫（新任）、中司 崇（新任）	
理 事	清水正睦、越智通隆、尾崎利夫（3名とも転任）	
監 事	平田伸成（新任）、川田哲雄（新任）	
理 事 長	遠竹郁夫（転任）	
副 理 事 長	森和彦（転任）	
常 務 理 事	総 務	香川清治、高島秀雄、岡本秀夫
	企 画	廣瀬紀雄（新任）、安宅耕一、石黒正昭、奈良信行（新任）
	渉 外	榎 利美、阪東政詮、松井 健、山本隆之
	会 員	鬼塚恒久（新任）、宇都宮靖、新井洋一、正岡富士夫（新任）
	広 報	蜂谷治幸、四ッ家邦紀、源外志明（新任）、高橋健二（兼務）
	財 務	内山好夫、北村善信、高橋健二（転任）

【退任】会長 : 村木鴻二（顧問へ）

副会長 : 江藤兵部（顧問へ）、細 稔（顧問へ）

監事 : 吉川武秀（顧問へ）

理事 : 岩崎克彦、市野耕人、渡邊聖夫、村岡亮道、岡本智博、村田博生、
吉田松徳

※ 監事、理事の退任には引き続き他の役職に就かれた方を除く

顧 問	上田泰弘、白川元春、平野晃、竹田五郎、山田良市、 森繁弘、大村平、米川忠吉、鈴木昭雄、長谷川孝一、石塚勲、 石川吉夫、杉山蕃、横澤彰夫、村木鴻二、江藤兵部、伊藤惇、 平岡裕治、吉川武秀、後藤龍一、細 稔、津曲義光
-----	---

第6号議案

JAAGA会則の一部改正（試行）について

第6条（役員及び役員選任）に第4項として次の1項を加える

4 年度途中における理事の選任は、会長が暫定的にこれを行うものとし、直近の総会において承認を受けるものとする。

在日米軍司令官ライト中將を表敬

— 5月22日、会長及び理事長がライト司令官を表敬訪問した。—



Courtesy visit to Gen.Wright

5月22日、竹河内会長と遠竹理事長がライト第5空軍司令官を表敬訪問した。

竹河内会長は「JAAGAは米空軍と航空自衛隊の相互理解と友好親善の増進を図るため、各種の活動を実施しており、エバハート第5空軍司令官、杉山統幕議長、村木空幕長という体制であったときに、鈴木元空幕長をはじめ多くの方が様々な困難を乗り越え創立されたものであり、今年は創立10周年になります。

JAAGA正会員は航空自衛隊OBであり、従って『エアマンシップ』の共有と言うことで他の組織にはなかなか出来ない活動も可能であります。これからは種々の活動を確実にこなしてゆくことが日米安全保障体制の信頼性向上に寄与し、結果的に大きな意味で日米同盟の強化に繋がると思います。」と挨拶した。

ライト司令官は、昨年10月に実施された日米安全保障協議委員会（所謂2+2）の議事録「日米同盟：未来のための変革と再編」を示され、「この中に日米双方が更に協力をし推進させなければなら

い重要な項目が定義されており、No1が防空、No2がBMDなのだと指摘、従って航空自衛隊とは今まで以上に良好で密接な関係を維持してゆかねばならない。JAAGA存在の目的が正にそこにあるという点で頼もしく、また今までの活動を高く評価している。」と謝意を述べられた。

昼食懇談の後、「次回は6月2日、タマヒルズで再会しましょう。」と硬い握手で基地を離れた。

（榎常務理事記）



Gen.Wright and president Takegouchi

SPORTEX'06A を開催

— 6月2日、本年第1回SPORTEX'06Aが
日米77名の参加を得て開催 —



1st party of SPORTEX'06A

JAAGA恒例のSPORTEXが春・秋の2回実施されるようになり3年目、本年度第1回目の06Aが6月2日(金)、米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて行われた。当協会から竹河内会長以下正会員及び賛助会員の計47名、また米側からはライト在日米軍司令官(第5空軍司令官)、リハイザー第5空軍副司令官、グッドウィン第374輸送航空団司令(横田基地司令)をはじめとして計30名、日米双方合わせて77名の参加のもと開催された。春のSPORTEXでこのように多くの参加者が集ったのは過去最高であり、JAAGAへの関心の高さが伺えた。

半年に一度の開催が定着し、また、多摩ヒルズの受け入れ体制が新しくなったものの、SPORTEXの成功の為に最大限の努力を惜しまないという気持ちの表れからか、運営は大変スムーズなものであった。また、全員日頃の行いが良かったせいか、天候にも恵まれ、各自の日頃の練成の成果が遺憾なく発揮されていた。

前回のSPORTEX05は、日米のグループ毎に順位が決定されていたが、今回は全体としての順位のみとし、加えて会長特別賞、司令官特別賞、基地司令特別賞が設けられることとなった。会長特別賞は62位(6月2日)とブービ・メーカーに、司令官特別賞は18位(18Wg)と44位(44Sq)に、横田基地司令賞は37位と74位(374Wg)に、それぞれ贈られ

た。JAAGA10周年ということで10位に特別賞が贈られた。更に飛び賞として、5位、15位、20位、25位…と、5位おきの表彰も行った。もちろん、ベスト・グロス賞、ブービ賞、ドラコン賞、ニアピン賞は従前どおりとされた。優勝は米軍メンバー、2位はJAAGAメンバー、3位は米軍メンバーであった。参加者全員に参加賞として、これからの夏に最適なクール・タオルが贈られた。最後に多摩ヒルズ側のJAAGAに対する積極的な支援・協力と、当日の運営を支えた米側1名、日本側5名のボランティアの皆様に対し会長及び司令官から感謝の意が表された。この中で、ライト司令官は、日米参加者の前に、「JAAGAは、日米の強固な防衛同盟に対して極めて重要であり、更にJAAGAは、航空自衛隊と米空軍の架け橋であり、私達の日本に於ける防衛にとって緊要な一部である。私達の関係を更に強靱なものにするために本年11月のSPORTEXが待ち遠しい。」旨述べられた。大変印象深いスピーチであった。こうして盛会裏にSPORTEX'06Aは閉会した。

SPORTEX06Bは毎年11月23日を恒例としているが、今年は[Thanks giving day]にあたるため、やむを得ず入間航空祭とバッティングする11月3日(金)、「文化の日」に開催することとなりました。現役の方も含め多くの参加を期待しています。

(源常務理事記)



Pleasant time

平成18年度の米空軍軍人の日光研修

—平成18年5月16日及び17日、
第5空軍司令部装備部長他5名が日光方面を研修した。—



Visit to Nikko area

本研修は、宇都宮市在住のJAAGA個人賛助会員高柳實氏のご支援で昨年に続き2回目。米側からは第5空軍司令部装備部長ウォンズィ L.ガードナー Jr.大佐、情報部長 ギルバート G.リオス大佐、作戦副部長ロバート M.ラジャーズ中佐、在日米空軍法務官エドモンド S.ブルーム大佐、第20作戦気象隊長マイケル R.ファーラー中佐、第374輸送航空団ウィリアム N.ピアス中佐、通訳兼調整役としてハセベ氏、また、JAAGAからは渉外担当山本常務理事と会員担当の宇都宮常務理事が参加した。米空軍の小型バスで横田基地を発ち東北自動車道宇都宮ICを降りた所で、高柳氏ご夫妻をはじめ高柳昌喜氏（高柳實氏の甥）、堀川典子さん（同長女）、三浦日出男氏（栃木県航空協会理事、防大4期）と合流、同行していただいた。日光「金谷ホテル」で昼食、その後、大改修された特別公開中の世界文化遺産の神橋（しんきょう）を見学、「いろは」坂を經由して二荒山（ふたらさん）神社を参拝し、同神社宝物殿を見学した。二荒山神社では、ガードナー大佐が

参加者を代表して緊張した面持ちで玉串を奉てんし、全員で神道に則り2礼・2拍手・1礼で拝礼した。宝物殿には国宝や重要文化財である刀剣類や山車等が展示され、研修者一同は、1492年のコロンブスの大陸発見に始まる新しい歴史の国アメリカに比べ、古い歴史を持つ日本の文化に大変興味深い様子で研修していた。二荒山神社を参拝した後、「華嚴の滝」に移動し、目の前に流れ落ちる荘厳な景色に魅了されていた。宿泊は由緒ある宇都宮グランドホテル。同ホテルでの夕食会では、高柳氏御夫妻、堀川典子さん、甥の高柳昌喜氏ご夫妻、三浦氏に大橋氏（高柳夫人の兄）が加わり和気藹々と楽しい時を過ごすことが出来た。

翌日17日は朝食後、ホテル内の広大な庭園の散策を楽しんだ。その後日光杉並木を眺めながら東照宮に向かった。東照宮ではこの時期、春季例大祭とあって、修学旅行生や観光客で賑わっていた。日本通のギルバート大佐は、茶道の心得があり、表参道で催されていた野立てで、ご自慢のお手前を披露した。

また、世界遺産に登録されている豪華絢爛の建物や三猿・眠り猫・鳴竜などの彫刻、絵画を見学、日本の歴史・文化への感心を大いに高めた様子であった。洒落た林の中の洋風レストランでの昼食の後、幸運にも当日行われていた流鏝馬神事を見学することが出来た。一同は初めて見る豪快な流鏝馬に感動の拍手を送っていた。

日頃の忙しい司令部勤務から開放され、1泊2日の日光旅行を十分堪能した一行は、高柳實氏等との名残を惜しみながら帰途についた。米空軍参加者一同、日光の素晴らしい景観と日本の歴史、文化等は勿論のこと、高柳氏が言っておられる「故郷を遠くはなれて、同盟国日本の防衛のため汗の流してくれている米空軍に対する感謝の気持ち」を十分に味わって頂いたものと思う。

本研修を成功裏に終えることが出来たのは高柳實氏のご支援やまたライト司令官の本研修に対するご理解の賜物と考える。

(宇都宮常務理事記)



With Mr. Takayanagi

ワンポイントQ&A

Q JAAGAとは？

A JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

Q 協会の運営は？

A JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

Q 私も参加できますか？

A JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

米空軍第730機動中隊、人間基地研修支援

— 5月16日ヘアー大佐他13名第2輸送航空隊を研修 —



Members of 730th AMS visit Iruma AB.

5月16日(火)、横田基地に所在する米空軍第730航空機動中隊(Air Mobility Squadron)が航空自衛隊第2輸送航空隊(入間)の研修を行った。J AAGAからは、越智理事と源常務理事がその支援を担当した。

研修者は第730航空機動中隊司令のヘアー大佐(Col. Stuart L. Haire)、輸送小隊長のジェニングス大尉(Capt. Gina Jennings)ほか、12名であった。一行は14時に入間基地へバスで到着。まずは代表者が第2輸送航空隊司令(新田明之1佐)を表敬し、懇談を行った。ヘアー大佐、新田1佐ともに輸送機搭乗員であり、また両名ともイラク復興支援に現地で携わっており、懇談は大変盛り上がり和気藹々と進んだ。

その後、第2輸送隊第402飛行隊に場所を移し、研修参加者全員が第2輸送航空隊の概要、保有航空機等について説明を受けた。第730航空機動中隊は航空機は装備していないものの、輸送機への物資の搭載卸下、整備支援等の任務を持った部隊であり、参加者全員大変興味を持って説明に聞きいていた。

15時頃から保有航空機であるC-1型輸送機、U-

4型多用途支援機を見学した。同行の将校2名以外は下士官であり、特に彼らは搭載設備、装備に大変興味深く関心を示し、質疑応答も積極的であった。このようにして研修は15時半過ぎに成功裏に終了した。

今後、第402飛行隊が第730航空機動中隊を研修する等、相互の交流が益々盛んになることを期待する。

(源常務理事記)



Inside of C-1 cargo plane

06 関東スペシャル・オリンピックス (横田) 観戦記



March with national flags

5月13日、14日の両日に米軍横田基地にて第27回関東スペシャル・オリンピックスが開催され、JAAGAからは大串康夫副会長が開会式に出席し、競技を参観した。スペシャル・オリンピックスは、障害者のためのスポーツ競技およびレクリエーション活動で、障害者一人一人に自信を高めてもらうことを目的として、1968年に米国シカゴで開始された。パラリンピックが身体的障害者を対象にしているのに対し、スペシャル・オリンピックスは知的障害者を対象にしている。関東スペシャル・オリンピックスは、1980年に横田基地の米空軍下士官団体によって初めて開催され、今年が27回目。

当日は、朝から生憎の小雨模様であったが、関東一円から400名を超える選手が参加し、小雨降りしきる中、日米両国の国旗を先頭に元気に入場行進し、引き続いて開会式が行われた。大会委員長の Michael O. Riddle 374整備群司令官が「障害と闘いながら今日ここに参加する全員が勝利者として敬意を表します。」と述べたのに対して、選手代表が「私達は、勝利を目指して頑張ります。たとえ勝てなくても勇気を出して頑張ります。」と宣誓したのが印象的であった。

行われるスポーツ種目はバスケット、50、100、200、400m走、立ち幅跳び、高飛び、ボーリング、

1マイル・マラソン、ソフトボール投げ、水泳などであった。

時間の関係で一部しか見ることが出来なかったが、冷たい雨の中、運動能力の大きな差に引き離されても懸命に自分との挑戦と走っている姿に、また、ゴールインに体中で喜びを表現する姿に胸を打たれた。

所要経費は約25,000ドル。公的予算はなく、個人や団体から集められたイベント収益金で賄われている。またこのイベントは、米軍軍人、家族、基地従業員、地域住民など 2000名以上のボランティアによって支えられている。優しく障害者選手をいたわ

るボランティアの中に多くの航空自衛隊員の姿を見つけた。入間基地からの40名、木更津基地からの17名をはじめ、百里、府中基地からも多数、応援に来ており、空自准曹士会の人知れぬ地道な善行を知って、清々しい嬉しさを感じた。

JAAGAはこれまでの経緯から、米軍嘉手納基地でのスペシャル・オリンピックスを支援してきたが、本年から横田、三沢各基地のスペシャルオリンピックも等しく支援することになった。今回の Michael O. Riddle大会委員長からは「JAAGAからの心温まる支援に大変感謝しており、参加選手への大きな励ましになっている。」とのお礼のメッセージがあった。
(大串副会長記)



You made it !

'06嘉手納スペシャル・オリンピックスに出席して

— 石津沖繩支部長 —



Opening ceremony

第7回嘉手納スペシャル・オリンピックスは、6月24日、快晴のもと沖縄本島各地から大勢の選手とボランティアが参加し、カテナ・ハイスクール・スタジアムで開催された。

定刻にやや遅れ開会式が10時に始まった。真夏の肌を刺すような日光の下、入場行進を待つ並ぶ人々を見て、心の中で「頑張れよ」と呟く。参加チーム毎に名前を呼び上げられ、暑さの中を元気良く入場して行く。開会式の開始に当たって、日米両国歌を第3海兵隊遠征軍音楽隊が演奏した。

第18航空団司令モールトン准将は所用で不在のため、副司令ケネディ大佐の開会の辞と牧野沖縄県副知事の挨拶後、聖火に点火され開会式は終わった。開会式には航空自衛隊から南西混成団副司令萩原空将補と第83航空隊司令半澤空将補も出席されていた。

いよいよ競技の始まりである。体に障害持つ人々が自分の精一杯の力を振り絞って走る。私が最後にあの様に真剣に物事に取り組んだのは何時の日だっ

たかと、一寸だけ反省する。

途中で暇を見て美術作品展示会に顔を出す。昨年も作品の出来栄に驚いたのだが、今年も素晴らしい作品が並んでいた。才能のある障害者が多く存在することに驚く。人は外見ではなく、内面を十分に観察して評価すべきであることを痛感した。

集まった障害者は老若男女各年代の人達で、普段



Running race

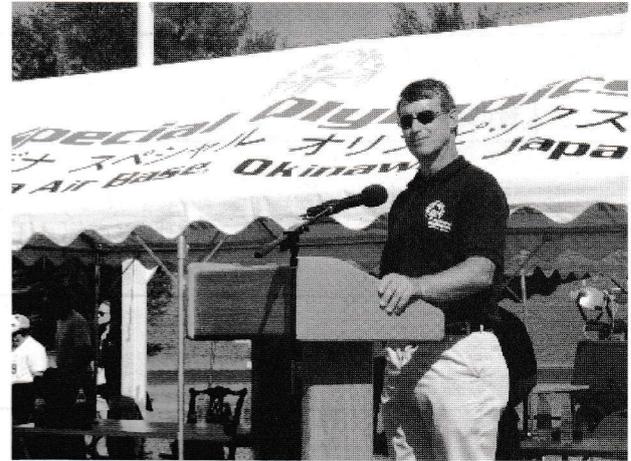
私達の目の着かないところでひっそりと暮らしているらっしゃるのだ。スペシャル・オリンピックのようなイベントが数多く開催されれば良いと思った。

競技は16時30分過ぎまで続くのであるが、次の予定があったため心を後に残しながら会場を後にした。嘉手納スペシャル・オリンピックの参加者数は本部発表でアスリート900人以上、アーティスト300名以上の合計1300人位だったとのこと。

翌6月25日17時30分から第18航空団司令宅で嘉手納スペシャル・オリンピック2006のレセプションが開催され、竹河内会長の代理として出席した。玄関に入ると司令ご夫妻が出迎えられて歓迎の挨拶をされた。出席者が集合し、しばらく飲食した後、7時30分からレセプションの主題である昨日のイベントに対しての司令官の感謝の辞が述べられた。その後、昨日のイベントの様子とこのイベントのために以前からの準備した人々の努力を写したビデオの映

写が行われた。

協力団体と個人に感謝と記念の大皿が送られた。最後に司令夫人から、「沖縄に来て短時日の間に多くの友人が出来て嬉しく思っています。今後も日米の友好の輪が広がることを祈ります。」との挨拶があった。



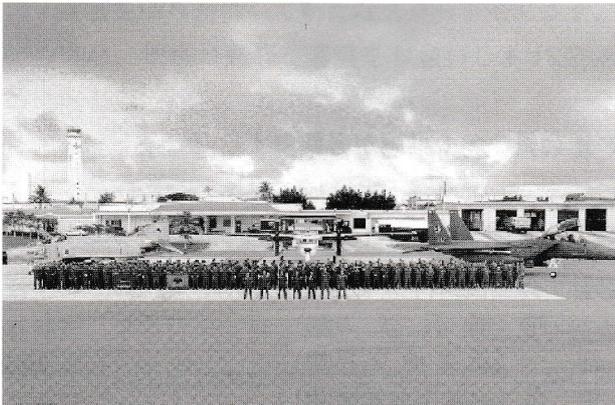
Opening speech by Col.Kennedy

コープ・ノース（グアム）訓練参加隊員を激励

18年度のコープ・ノース・グアム'06訓練が5月26日から6月20日までの間、グアム島において行われた。日本側から有馬1佐を訓練指揮官として航空自衛隊員約240名、第3航空団からF-4EJ型機10機並びに警戒航空隊からE-2C型機2機が参加した。梅雨期にも拘わらず天候に恵まれ、戦闘機戦闘

訓練、防空戦闘訓練、空対地射爆撃訓練等の訓練を計画通り実施し、多大な成果を収めて訓練は終了した。JAAGAからの訓練激励金が視察のためグアムに出張された菊川北空司令官に託され、訓練間の日米交歓に活用された。

(石黒常務理事記)



Cope North' 06 in Guam



Aircraft mechanics

… 新入会員の紹介 …

1 正会員

氏名 勤務先	〒	住所 (上段: 自宅、下段: 勤務先)
		該当者なし

2 個人賛助会員

氏名 勤務先	〒	住所 (上段: 自宅、下段: 勤務先)
林 武 男	192-0904	東京都八王子市子安町3-8-12
エア・ブラウン(株)	104-0061	東京都中央区銀座7-13-8

3 法人賛助会員

法人名 代表者	〒	住所
石橋オフィスサービス(株) 石 橋 寛 幸	260-0031	千葉市中央区新千葉2-1-7-403
PTC ジャパン(株) 椿 一 志	163-0920	東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリスビル

会 員 募 集

J A A G A は、今年で創立10周年を迎え、更なる前進を目指して会員の会勢拡大に努めておりますが、近年の日本の社会現象を反映しているのでしょうか？ J A A G A には既に少子化の現象が現れております… (笑???) …。冗談を言っている場合ではないのです。若年定年の自衛隊では団塊の世代が大量定年を迎え J A A G A 入会有資格者は確実に増えているのに、上表のとおり正会員の入会者はゼロなんです。

今後、有資格者及び予定者に対して入会の促進を図ってまいります。その折は J A A G A の趣旨に賛同されご入会いただくようお願い申し上げます。

なお会員の皆様にあつては、勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を今後とも宜しくお願いします。

【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊のOB

個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

【郵便】 〒105-0004 東京都港区新橋5-25-1-3

日米エアフォース友好協会 会員担当行

【電話】

03-5400-4722 宇都宮 靖 (横浜ゴム(株))

03-3286-0339 新井 洋一 (新東亜交易(株))

03-3213-0270 鬼塚 恒久 (三井生命保険(株))

03-7616-4319 正岡 富士夫 (三菱重工業(株))